

## 生徒会長だけではできません

休校を挟んだので、ずいぶん時間がかかりました。漸く前期生徒会役員が決まり、令和二年度の生徒会活動がスタートします。

それにあたり、生徒の皆さんに言いたいのは、生徒会活動が充実するかどうかは、生徒会役員だけで決まるわけではないということ。だれで決まるのか……それは、立候補者を出した「母体」、つまり、学級や学年だと私は考えています。

とりわけ三年生全体と、当選者を出した学級には注目が集まります。それが、当選した役員の「母体」となるからです。学年や学級を挙げて、どのように彼らを支えるか楽しみです。

生徒会長のY S君を例にとって考えてみましょう。以前も書きましたが、会長立候補者二名は、北中のあいさつを盛り上げたいという思いが一致しています。当選したY S君は、公約で「あいさつキャンペーン」を掲げました。皆さん、覚えていますか。

しかし、これは「きっかけづくり」だと彼は言っています。だとしたら、キャンペーンではないときに、あいさつを盛り上げる働きかけが大切になってきます。校内にいるときだけではなく、登下校時を初めとする校外にいるときにもそれが必要です。

それは、生徒会長だけではできません。彼を後押しして、通学路やそれぞれの地区であいさつを盛り上げるのは、三年生全員であり、中でもY S君の所属する三年B組が最も熱くならなければなりません。それが「母体」というものであり、「支える」という具体的な行動です。

三年生の皆さん、あなたは学校で出身小学校や部活動が違う後輩にあいさつしていますか。また、登下校中に通学路で、はたまた休日それぞれ地区で、後輩たちにあいさつを自分からしていますか。後輩の名前がわからなくてもあいさつをしていますか。男女関係なくあいさつしていますか。それができて初めて「支える」ことになるのだと私は思います。

(六月十日 記)



教室で演説を聴く生徒たち